

氏名 _____ A委員 _____

意見内容	回答内容
発送7日目に礼状兼催告状を送付したことが、53.4%という高い有効回収率に繋がったと考えられます。	前回調査よりアンケートの量は増えたのですが、回収率が上がったことは、市民の皆様のご協力の賜物であると考えております。
仕事に要する時間について、女性では「なし」が32.4%と大阪府調査より高いのは、吹田市の共働き世帯比率が大阪府平均より低いことによるものでしょうか。	理由の一つとして、働いている女性が少ないということは考えられるかと思えます。
介護に要する時間「なし」「ほとんどなし」の合計が大阪府調査より高いのは、吹田市の高齢化率が大阪府平均より低いことも要因の一つであると考えられます。	-
社会・地域活動への参加のさまたげとして、「やりたい活動をしているグループや団体を知らない」という回答が一定割合あります。これは市からの有効な情報提供によっては解決できることで、市民の社会・地域活動への参画を促進するために積極的に取り組んでいただきたい。	今後、市民の皆様への情報発信を強化していきたいと思えます。
男女とも、「結婚や出産に関わらず仕事を続ける」という回答が現役世代に多いことをたいへん心強く感じました。	-
女性の「休暇の取得のしやすさ」が高いことは望ましいですが、一方、パタニティ・ハラスメントのような男性の休暇取得を阻害する問題があることが考えられます。	本設問については、男性の休暇取得の難しさが把握できましたので、男性の休暇取得を促進するような取組づくりを検討していく必要があると考えております。
制度や体制づくりではなく、「企業経営者や職場の理解」との回答が最も多かったです。これは意識変革を促す啓発事業等が効果に繋がる可能性があります、今後の市の取組に期待いたします。	アンケートの結果をもとに、今後取組を検討してまいりたいと思えます。
前回調査との比較では、すべての項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が上昇しているのは望ましいことですが、大阪府調査と比較すると低くなっている要因は分析の必要があるのではないのでしょうか。	分析の必要性も踏まえて、研究していきたいと考えております。
相談先として、「配偶者暴力相談支援センター、子ども家庭センター、すいたストップDVステーション」の認知度が前回調査より高くなっていることは望ましいことです。	-
魅力的な各種事業を実施し、ジェンダー関連情報提供機能を有している「デュオ」の認知度や利用率がアップすることを心から願っております。	デュオの知名度については前回とほぼ同程度となっており、5年前から認知度の拡大がみられないことが分かりましたので、引き続き、認知度の拡大に努めてまいります。

氏名 _____ B委員 _____

意見内容	回答内容
「どこにも相談しなかった」の依然としての多さ 相談しなかった理由に、不十分さとこれからの取り組み課題が見える。	「どこにも相談しなかった」の割合は前回調査よりわずかながら増加していることもうかがえますので、相談窓口の一層の周知などで、孤立する方が増えないような取り組みが必要と考えております。
国、世界レベルでの用語などはマスメディアなどで認知されているが、吹田市独自の認知度が低い。広報啓発の必要性。	アンケートの結果を受けまして、今後、吹田市の取り組みを市民の方々にもっと知っていただけるような取り組みを行う必要があると考えております。
これほど認知されてないのかと。特に若い人たちに必要とされていない。学び出会い活動の場として活用されたい。	認知度につきましては、前回の調査とほぼ同程度となっており、低い水準のまま推移しておりますので、今後認知度向上のための施策検討が必要であると考えております。
アンケートの量が多すぎる、質問が多すぎる…確かにと思った。	アンケートの量については、御意見を真摯に受け止め、次回の際には設問の取捨選択を含め、適切な設問量を検討したいと考えております。
子どもの学歴、どのような生き方を望ましいかという設問はいかがなものか。あえて必要なかったのでは。	ご意見頂きましてありがとうございます。教育に係るジェンダー観を把握する目的で設置いたしましたが、次回の際には、本設問について改めて検討したいと思います。

氏名 _____ C委員 _____

意見内容	回答内容
前回と比べて大きく分布が違っているので（「希望」は個人生活優先の割合が上昇しており、「現実」は仕事優先が上昇している）、言及があってもよいかと思いました。	追記するように致します。

氏名 _____ E委員 _____

意見内容	回答内容
男性の60代、女性の50代までの働き盛り世代では、「仕事が忙しく、時間がない」が第1位で、社会、地域活動の人材不足が顕著です。仕事以外のグループ活動などに目を向け、地域に溶け込むための情報が発信できればと思います。	情報発信の方法を検討し、地域活動への参加意識の醸成を促進できるようにしたいと考えております。
新聞やテレビなどのメディアを通して聞く言葉の認知度は高いですが、聞き慣れない専門的な用語に対するわかりにくさを解消する方法はあるのかと思います。また吹田市の吹田市自治基本条例、吹田男女共同参画プラン、すいたストップDVステーションなどが認知されていないことに問題を感じました。	アンケートの結果を受けまして、今後、吹田市の取り組みを市民の方々にもっと知っていただけるような取り組みを行う必要があると考えております。
アンケートに回答したことで、「男女共同参画」に意識を持つことができたという意見ありました。コロナの状況下で、外出自粛やいろいろな活動の中止によって、人と人との関わりが希薄になっています。身近に情報は得られるよう、発信の方法に今以上の工夫が求められていると思います。	今後の男女共同参画推進のために、まずは皆様への情報提供を行い、知っていただくということが大切かと思っておりますので、市としてできる効果的な情報発信の方法を考えて参ります。

男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書 意見票

氏名 _____ F委員 _____

意見内容	回答内容
有効回答率がアップ、市民の声を少し多く拾う事が出来てよかった。若い人の回答を増やすため今後インターネット回答を取り入れる事を検討してほしい。	次回以降は、インターネット回答の併用での調査も検討してまいります。
夫婦別姓肯定する方65%正直驚きました。	-
地域活動参加できない理由に仕事が忙しいとあり家庭生活の厚生度も1位。家族ぐるみの地域活動を進めていければいいと思いました。	-
ただ女性管理職の数を増やすのではなく能力ある女性を差別なく昇格できる社会作りを進めたい。	-
再雇用が普及していない事を知りました。社会環境制度普及が今後必要と感じました。	-
子供には、自立した生活、能力を生かせる事を希望しながらも大学卒を必要との回答。まだまだ学歴社会が根強いと感じました。これからの社会(日本)は個人の能力重視し、本人も自覚し、しっかりした意見をもって社会生活を送れるよな社会になってほしい。その為の生活指導を男女共同参画が担えばいいと思います。	-
セクハラ、パワハラは概念は、相手が嫌がる行為である事との認識を拡げる為の教室を企画してほしい。	男女共同参画センターでは、令和元年度、市内2か所の事業所にてハラスメント防止についての研修を実施しました。今後も広報に努め、市民対象の講座を実施してまいります。
過剰な性、暴力表現を問題視している方が、予想よりまだ少ないと思いました。子供の目にふれない為、メディア、インターネットへの〇〇けと同時に家庭内での話し合う機会を増やす事も大切であると思う。	-
男女共同参画に男性クッキング以外、家族ぐるみで楽しく参加できる健康教室、料理、木工教室の開催を増えればいいと思います。	ご意見ありがとうございます。今後の教室開催の参考とさせていただきます。
男女の差異を認め、特性を生かし、個人を尊重しあえる事が大事。女性の自立を目指し、又、自立している方が多くおられる現在。家事、子供には男女共同の姿勢が欠かせません。その為に、環境を整えることが結婚、子供の希望も増えるのではないのでしょうか？反面、独身男性には負担がかかっているのも現実です。これらのバランスを行政がうまく行ってほしい。	-

氏名 _____ H委員 _____

意見内容	回答内容
多くの項目で前回よりも男性が優遇されていると感じられていることが不思議だと感じる。また、女性活躍推進法等の改正で、実体上、法律や制度では後退しているわけではないのに、「法律や制度の上で」そう思う方が多い理由も気になるところである。	-
夫婦別姓には、3分の1の人が未だ反対等の意見を持っていることがわかった。3歳児神話も同様。	-
自宅での介護を希望する方が、娘による介護を希望している割合が増えていることに驚いた。ここにも性別役割分担意識が見て取れるように感じた。	-
出産等により仕事を辞めた女性の再就職のために必要な事として、同一企業での再雇用制度であることが一番多かったことは、今後の施策の指針の一つになるように思われます。	アンケート結果をもとに、今後の施策を検討する上で参考といたします。
男性の育休、介護休の取得には、制度が整っていても職場の理解が足りないことが分かる。	-
同性間でもセクハラがあることを知らない方が4割程度いることは改めて周知の必要性を感じた。	今後の啓発活動がより必要であると考えております。
DVの内容について、間接的暴力や無視、プライバシーの侵害等も入ることを知らない人が多いので、周知が必要だと思う。	今後さらなる周知、啓発に努めてまいります。
精神的暴力の頻度が多いことがわかり、コミュニケーション能力の向上等が必要だと思う。	-
DVを受けた人の約半数が誰にも相談せず我慢していることが分かり（しかも前回より増加）、相談窓口の周知の必要性を感じた。また、防止のための方策として相談できるところを増やすを挙げている人が多いこともうかがわせる。すいたストップDVステーション、デュオを知らない人が多い。	広報の方法について、さらに様々な方策を検討してまいります。
自由意見欄に記載された中に、経済的・精神的に困窮している方の記載が増えている気がしました。ここに書かれた意見は、次回に反映させるようにしたいと思います。	-

氏名 _____ J委員 _____

意見内容	回答内容
<p>「性別に加重点をみると、・・・」の説明がわかりにくい。方法自体がわかりにくいことに加え、問10以外は、加重点の付け方についての説明が数ページ先にあるため特にわかりにくい。</p> <p>このままでいく場合は、せめて下記のようにしてはどうか。</p> <p>たとえば、問10の場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別による違いを加重点（p.12※参照）でみると、否定的な傾向は女性の方が強く、とくに40歳代、50歳代、70歳代で顕著である。 <p>というように書いて、ページ最後の「上のグラフは、・・・」の文章の前に「※」を付ける。問11、問12、問20、問40、問43でも同様の対応を行う。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。修正致しました。</p>
<p>各問について、男女別の回答をグラフで示してほしい。</p> <p>次のページに表で男女の年齢階層別の割合を示しているが、表だけではわかりづらい。</p> <p>表はそのまま残したうえで、男性全体と女性全体の割合についてもグラフ化してほしい。</p> <p>前回調査と今回調査を比較するグラフを載せている問については、それと併せて男女別のグラフも載せればよいのではないか。</p>	<p>男性と女性の表について、わかりやすいように、男性と女性間にスペースを入れさせていただきました。</p>
<p>各問について、箇条書きで調査結果の特徴を書いている部分のうち、「・性別にみると、・・・。」という記述部分が、回答における男女の違いの特徴が十分に指摘できていない間がある。「男女ともに『・・・』が最も多く、男性では〇%、女性では〇%となっている。」というパターンの書き方が多いが、これだけでは性別による回答の違いが示せない。</p> <p>たとえば、問37の場合なら、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性別でみると、男女ともに「相談できるところを増やす」が最も高いが、「シェルターを確保する」では、女性（57.6%）が男性（45.1%）を12.5ポイント上回っている。 <p>というように、男女間で見られる違いに着目して記述してほしい。これにより、被害を受けた場合にすぐ避難できる場所を望む思いは女性の方がより切実であることを調査結果から示すことができる。</p>	<p>ありがとうございます。今回の集計の方法ですが、横%での集計となっておりますため、横での比較を基本に構成しております。例えば女性の回答の比率については言及可能なのですが、男性と女性で同じ選択肢の比率が女性の方が多からといって、男性より女性の方がその選択肢を選んだ人数が多いという言い方が適切でない場合があるため、本報告書では横での比較を中心にさせていただいております。次回以降、より細かな分析に努めてまいります。</p>
<p>問23の質問文とグラフタイトルについて、「男性が育児休業や介護休業をとりやすくする・・・」と改めることが望ましい。調査の選択肢の文章では「休業」となっているのでこれに合わせてほしい。</p>	<p>修正致しました。</p>
<p>「性別にみると、・・・」は、「性別でみると、・・・」の方が一般的ではないか。</p>	<p>修正致しました。</p>

男女共同参画に関する市民意識・実態調査報告書 意見票

氏名 _____ K委員

意見内容	回答内容
アンケート自体も含めて、ネットの利用を希望される方は多いと思います。今後整備を進めて欲しいです。	インターネットを活用した調査のニーズは今後さらに高くなってくると想定されますので、次回以降、検討いたします。
男女共同参画が差別、またそれに類する意見がある一方で、現状をしっかり認識している意見がある。この意識の差をどう埋めるかが課題だと感じます。	個々人で意識や考えに差があるのは当然だと思いますが、その考え方の違いを認め、考慮したうえで、市としてどのような取り組みや啓発を行っていくのかという部分を考える必要があると感じております。
男女共同参画や性教育などについて学ぶ機会がないと個人的にも感じているので、子供の時から学べる環境が必要だと感じます。	教育委員会と連携してまいります。
デュオを知らない方が多く、既にセンターで行われていることを希望する声もある。男女共同参画はどの部署にも通じることなので、もっと連携して周知できないかと思います。	デュオの認知度が依然として低いということは課題のひとつと考えておりますので、今後も引き続き、効果的な情報発信を進めて参りたいと思います。